咒語審

和装本
ホ-4
1538
3

助語審象卷之下目次

如若似均仍故猶（由同）尚（初丁）幸賴熟倩信允情諒（附）（四）
實寔展亶真洵誠亮（五丁）能（耐同）善克巧好喜矧況（六丁）
更改起（重再附）兼還（旋同）復亦又（且加翻附）（九丁）始初肇甫造
昉（哉載崇附）在有（存著迓附）（十二）任耐（能同）勝堪（忍禁附）憖強咋近（暫附）
古
長（鎮永附）每恒常值會脫偶（遇因附）（十五）抑或果苟即
儻（倘同）設試（嘗附）（十七）審就如若（猶誠附）縱借（藉同）假譬（九）嚮
（鄉鄉向同）匹（正饒任附）使令遣教俾致（二十一）葬伻作爲庶幾（上同）尚

大正 年 月 日寄 文曾
水加4 1538 3-3

冀 汦二十 附四 許 頃 所可 如附 空虛 素徒 附 姑薄 少間 三十 五 凡 亂

連應 百附 率 槩 抵歸 類約 致較 三十 七 慮諸 統合 都渾 殊附 總切 粗

麤 同 捔 略 二十 九 幾 豈 巨 渠同 寧 無乃 附 孰 疇 誰 各 三十 詎 渠巨 遽同

矣 那 奈 耐同 奚 曷 害同 何 如何 類附 胡 三十 四 盍 闔 遐 庸 焉 安 惡 烏

三十 八 嗟 噫 意同 嘻 諱同 戲 嚱同 唉 欸 嗚 烏同 呼 虖 四十 叱 咤 謇 矣

慶 嚄 咨同 嗞 都 吁 於猗 緊 惡 猷 噬 四十 烝 喈 咈 哀 誒 噬 附二

俗語助字部

謦麼地 阿頭邊 許 渠同 價 四十 五 恁 儘同 盡 做 慣 件 色 上二下 四十 六

等 底 怎 爭附 甚 那 他 這 箇 個 四十 同七 可 該 是 也 解 省附 險 然

些 四十 八 任 饒 從 信 總附 放 容 許 附 浪 謾 漫同 不 休 沒 莫 四十 九 來 去

除 只 說 道 得 着 五十 負 取 窣 斗 陝同 猛 打 劃 暫附 打 赤了 却 五十 二

恰 纔 剛 的 殺 慤 生 樣 脚 五十 三 向 和 杜 賸 剩同 番 般同 回 子 兒

五十 四 靠 交 消 厮 哩 呢 咄 咦 五十 五

助語審象巻之下

橘園三宅先生口授　門人　釋海定　三上惇　筆録　宮永寅

○如若似均　仍故猶尚

如ゴトシ　シタガフモノニ　ノヤウニオリイ訳ス　如者向彼紀此其所比方之辞

如ハユクタト訓ニテ此方ニテコクサキヘ對シ此方ノ出タル処ヲ見テイフ字ナリ　ゴトシト訓ス時モ向フノモノニ對シテ其体ヲイフ辞ナリ

若（ジャク コトレ モシ カクノゴトキ）　ソノヤウナト訳ス

若若猶此指其所擬模之辞

若ハシタガフト訓シテ向フ樣子ニツキテヲ「ナリ」ゴトシ訓スル時モ向フノモノヨフスニ付テ見テソノ用ヲ云辞ナリ　如ハ物ニツキテイフ　若ハ心ニツキテイフ

如ハ体ニテ外ニ相手ヲトリタトヘテ我ヨリ比ヘラベテソノヤウトスルナリ　若ハ用ニテ其内ニテ彼カ其ヤウニナンテアルナリ

武帝本紀

獨見其星出如瓠（ヒサゴノ）　封禪書

封禪祠其夜若有光如瓠ハ外ノ瓠ト云モノヲトリ来テタトヘルナリ若有光ハ即光リアリテ真カ假カ分ラヌ故ニ若ト云タルナリ此ノ下ハ人ノ幽界ノ事物ニヒキ出シタトヘルナリ若ノ下ハ明界ノ形象ヲ云テ擬スルヽ如此若此ナドハ記者ノ心ニ幽界明界ハヲ分ケテ如ト若トヲ書分ルナリ如此ハ外ノヿヲラベルヽ若此ハコヽノヿヲラベルヽ吾心ニテ云ヽ

不如其（トハセラレマ）　不若其（ヤウナヨフ トハセラレマ）　莫如（ツヽトオリノ ヽノモノヲイフ）　莫若

ソノヨウスナリコハモフナイ　不如鳥（鳥ニクラヘテイフ）　不如鳥如（ムスベテミルニ 鳥ニモカヌ）　曾鳥之不如（カ）

トント鳥ニヲヘモ及ハヌ況ヤ人ヲヤ　不若鳥（ヤウスヲ見テイフ）　不鳥若（ソノヤウスカ鳥ノヽ子モナラヌ）　殆鳥（ホトンヤ）

之不若（カ 鳥ノヤウニスラナラヌホドトシヤ）　莫若周公（ニ外人ヲモトヒニイフ 世ニ周公ヤウノ者ハナイ）　莫周公若（メ 周公ヲ主トシテイフ）

億一年天欲殺之則如無生（キ 定 五子西曰）

不能如辭（スルニ コレハ如字不如ノ意ニ似タレ共我ヒトノイヘハ不如ニカクヘキナレ 彼ニシテモシクハ無生ニテモアラヌカモシクハ辞スルコトモアラカト云タルナリ）

論語

君子哉若人（タカノコトキ ソノ人トイフキミナリ）　褒夫婦所生若而人（カクノコトキ ソノ人トイフキミナリ）

若干（コバク 若ハソコラノヨフスノ処ヲサス干ハ俗語ノ箇ト同シ）　傍若無人（外ヨリ見テイフノ）　若傍無人

其人ナリ　小若疾（ハヤウニ スコシ見ル）　若小疾（疾カスコシキヤウナ）

翕如（タリ）　皦如（タリ）云云如トイヘハ外ノコヲトリ來テソレニ比シテソノトオリト云フヽ
翕皦ハモト樂ノコニアル文字ニ非ス外ノ語ヲトリ來ルヽ

惕若（タリ）　嗟若（タリ）云云若トイヘハ外ノコヲトリテナシ即其字面ノ上ニテソノ親ニナリテ
アルト云フヽ惕若ハ即オソレヨフスヽ嗟若ハ即ナゲクヨフスナリ

佛經　形狀蛇如（ミヽ）有四足（コノ如字ハヤハリ蛇如ノ意ナリ東坡詩ニ
肝膽猶能楚越如トアルモ同意ナリ）

似（ジニタリノレリゴトシ）　狀貌有疑於同曰似

似ハドコヤラニ同シ狀（ヨフス）ガアルヿナリ

亦似有得（其人ガ一タチリ）　似亦有得（其事ガ一タナリ）

裏二十三　抑君似鼠夫鼠晝伏夜動

似類　如類

均（キニナラヒヒトシ）　鈞同

稱量之可相衡持曰均

均ハツリ合フテアルヿナリ

昭二十八　鈞將皆死

均之（猶之ト同シバシヨニ用ユ）

仍（ジヨウナリ一タ）　アヒモカウズト訓ス　仍義見于前

劉高傳　堪出之後大變仍臻

故（コナヲモトノワケクモツテイルナリ）　故義見于前

周本紀　萬方故不笑

猶（イウナリゴトシモシ）　通作由　ソレデモト訓ス　猶者示趑趄有顧於後之辭

猶ハモト獸名ニテ一足ヅヽ行キテハ跡ヲ見カエリクスル者ナリ立

モドツテ見レバヤハリ其スヂジャト云意ナリ　猶ハ其トオリ其ヤウナレカト云ニハアラフカト事ハ違フテアレモ言フテ見ルト畢竟ソノスヂニヒトシイト云ヿナリヒトシキト云訓的當ナリ如ヨリ若ハ辞ニルシ若ヨリ猶ハ〻タク緩ナリ

春秋　不郊猶三望　昭十二　六人同之不猶愈乎

秦策　其實猶之不失秦也　蘇傳　今日見老子猶龍邪

複用　四　僖　一　薫一蕕十年尚猶有臭　尚字一ノ語ニ係ル　猶字二ノ語ニ係ル　僖　五　親以寵偏猶尚害之　猶字下ノ語ニ係ル　尚字上ノ語ニ係ル　猶如　猶若　猶似

尚　ナホ　通作上　ヽダト訳ス　尚者示所進更有籌餘之辞

尚ハクワヘルト云字ニテ其上ニヽダアルト云意ナリ

尚ハサキヘ殷ク加ヘテユクノリ体ニ属ス　猶ハアトヘモドリテイフナリ用ニ属ス

尚誰予乎　秦策　不歸四國尚焉之　燕策　其民力竭矣安猶家　昌世

取哉　尚奚　尚何　尚安　寧尚　尚復　三ノ句賸複用ノ例ナリ

○幸賴熟倩　信允情諒

幸　カウ　サイワヒニ　シアセ上訳ス　所邀值可欣喜曰幸

幸ハシアワセノヨキコトナリ　元后傳　太子宮幸近可壹往遊觀

賴　ライ　サイワヒニ　ヤウ〳〵ニト訳ス　憑恃之以自慰曰賴

賴ハヤウ〳〵ニソレヲコヒトシテ居ル意ナリ　燕策　賴得先生雁鶩之餘

熟　ツラ〳〵

既慣之能經鍛錬曰熟

熟ハヨク其ヿヲ子リツメクル意ナリ

倩　ツラ〳〵

婉曲久之曰倩

倩ハ心ヲ用テ念ヲ入ルヽナリ

信　マコトニ

マヿガヒタヿト歎ス言行相徵可驗曰信

信ハ引合セ見テヿガヒノナキヲ云僭ノ反ナリ

昭元子曰信美矣抑子南夫也

允　マコトニ

イカニモトト歎ス　從外容其可曰允

允ハユルストト云字ニテ衆人ガ見テイカニモヿガワストスル所ナリ

傳十八　軍志曰允當則歸

情　セイ　マコトニ

モチヰヒトト訳ス　盡意之所欲未容偽飾曰情

情ハ意ニ思フテ井ルヽナリ偽ノ反ナリ

王符貴忠論　情知積粟腐舍而不忍貸人一斗

諒　ヤウ　マコトニ

彼我有相徵曰諒

諒ハ我心ヲ人心ニ通シ知ラシムル之　諒良相近クモ諒ハ去声ニテ体ニ属ス良ハ平声用ニ属ス

小雅　及爾如貫諒不我知

良（ヤウ　一コトニ　ヂツト、訳ス）　見于前

昭八　吾身泯焉弗良及也

○實寔展亶　真洵誠亮

實（ジツ　一コトニ　古作寔）　充在無耗闕曰實

實ハ内ニ持テアル処ヲ云虚ノ反ナリ

寔（ショク　一コトニ　トクト其処ニヲチツタ意ナリ）　寔義見于前

莊八　陳嬀歸于京師實惠后

桓六　春正月寔來　實字ノカワリニ帝諱ヲ避テ寔字ヲ用タルコアレドモ實ハ体寔ハ用ニテ同シカラス

展（テン　一コトニ　上声）　敷意陳之曰展

展ハ我心ヲノベシキテイフ意ナリ　鄘風　展如之人兮邦之媛也

亶（タン　一コトニ　多簡反上声）　執此篤之曰亶

亶ハ厚ク丁寧ニイフナリ　タヾト訓スルトキハ徒簡切ニテ但ト通スルナリ

小雅鹿鳴　是究是圖亶其然乎　展亶トモニ韻文外ハ用ヒズ

眞（シン　一コトニ　ホンマト訳ス）　天成不容偽曰眞

眞ハウブノ、ナルコトナリ　假ノ反ノ字ナシ　六經ニ眞字ナシ

留侯世家　百后眞而主矣　眞（一コトニ　真誠モ同シ）

洵（シン　一コトニ　恂同　多々ゝと訳ス）　繾綣綢繆曰洵

洵ハノリカヘシテモノトヲリト云意アリ　王風

誠（マコトニモノ）　所運用恒久不變曰誠

誠ノドコヽデモトヲリテカワラズヅヽクヲ云

論語　誠不以富亦祇以異　誠詩ニ作成

亮（マコトニ）　亮與諒同　魏都賦ニ出ツ

○能善克巧　好喜矧況

能（ヨク）　致得之盡其方曰能

能ハ其手ヽヘニテ自由ニデキル所ヲ云

人人不能得（タレモカモ得ルヿヲヨクセヌ）　不能人人得（タヽヽハアレド人ゴトニハ得ラレヌ）

不人人能（人ゴトニヨクセヌ）　不可人人能（人タヨクセントシテモヨクセラレヌ）

能有所發（能字ソノ人ニカヽル）　有所能發（能字ソノ事ニカヽル）

莫之能行（ヨク行フヿヲコノヽヽニセヌ之字活動ス）　莫能行之（行ヲヽヲ能スルカセヌカノ吟味ヤ能字活動ス）

有能　能有　為能　能為　無能　得能

能無　不能　能不（ナド此ニ准知スベシ）　能得

孟子　吾未能有行焉　未有能濟者也

耐（ヨク音能）　與能同　檀弓　仮則安能（セン）

善（ヨク）

禮運　聖人耐（ヨク）以天下為一家

成得之有以繼曰善

善ハ人ヨリ見テ誰ガ見テモヨキトイヘル程処ヲ云 能ハ体ナリ善ハ用ナリ

善ハソノ事ニツキテイフノミク意アリ 能ハソノ人ニツキテイフ

善書 外ヨリイフ 能書 ソノ人ニナリテイフ

田僧傳 無不善書者莫能圖何哉

濠志 岸善崩

克 ヨク

克ハ成シガタキ処ヲシレオホセタルナリ シレオホセルト訳ス

用力盡其所難曰克

堯典 克明俊德

後用 昭二十六 克能修其職

方術傳 故能克崇其業允協大中

巧 カウ ヨク

巧ハ拙ノ反ニテ物事ヲ上手ニスルコトナリ

對拙指其隈曲及刻曰巧

好 カウ ヨク ヨシ 上声

好ハ思テミテヨシトスルナリ好ノ反ナリ

尋思之以為美曰好

成十六 好以衆整 全 好以暇 アリ

魏志 盛德烈壯好建功勲

喜 キ ヨク コノミテ 又作憙

喜ハ怒ノ反ニテソレラウレシガルナリ

得所嗜不自已曰憙

東方朔傳 喜為庸人誦說

喜忘 ソノ人ニナリテイフ 善忘 外ヨリミテイフ

矧 シン イハヤ 又作敍 カヲアルウヘニト訳ス

矧者架一層乘之之辭

矧ハカヲアルウヘニ猶サラトイフ意ナリ 矧ハモトミスルト訓スル字ニテソノ奥ノ手ヲイフキミヘ

盤庚曰知天之斷命矧曰其克從先王之烈

矧且　矧又　矧乃　矧夫（イツレモ語頭ニ用テ句頭複用ノ例ナリ）

況（キヤウ　イハヤ　又作況ニシテヤト訓ス）　況者擬其所有尚者而掩之之辭

況ハタトフト訓シテ其ヨフスヲ思ヒヤル処ヲ云字ナリ（旅況情況衣ノ況字ノ意ヲ）

カフサヘアルニサゾヤト云意ナリタトヘヲ取テ二段カサヲカケテ云ナリ

矧ハヒトツバレヨニテ言フナリ況ハ界ヲ越シテタトヘヲ取テ言フナリ

孟子　況乎以不賢人之招招賢人乎

而況　何況　豈況（何豈ナドノ字ヲ加ハイヨク深クカサヲカケテ云ナリ）

○更改起無　還復亦又

更（カウ　タガヒニ　アカラサニ　去声）　置舊舉新曰更

更ハアラタメ其事ヲ出シテ重ネイフ詞ナリ切カヱテ二段シキリヲ立テイフナリ

更無（キリカヱテミテモナイ）　曾無（トント　ナイ）

更不可改（更字其人ニカカル）　不可更造（更字其事ニ係ル）

傳五　在此行也晉不更舉矣　趙策　臣更不理

改（アラタ　サラニ）

改ハサツハリ新ラシクスルナリ　乘故易物曰改（フルキヲステヽシニフハ改ナリフルキハソノマヽニシテオキテアタラシク作ルハ更ナリ）

雜記 反改成踊

起 キ サラニ　　奮以趨於用曰起

起ハ臥ノ反ニテ進ンテ用ヲナス意アリ

内則 起敬起孝 鄭注起猶更也

重 チョウ カサネテノ 平声 ルハ上ヘカサヌルナリ

再 サイ フタヽビ 二度アルヿ之

サラニハ記者ノ心識ニカヽル故ニ助字トスレ圧 再ハ其事實ヲ記ス詞ユヘ助字ニ非ス

兼 ケン カ子タ　　攝彼以副於此曰兼

兼ハ主トスルモノ外ニ客ナルモノヲ兼ル意之 趙策 又兼無燕秦

還 セン マタ 音旋 旋同 メグリテキテノ意ナリ

還義見下前 スナハチト訓スル処ニ出

管子 還四年伐孤竹

復 フク マタ フタヽビ 去声 扶富切 モトノトコロニ訳ス　復者襲跡再追之之辞

復ハ重子テアルヿヲ体ニシテ言フナリ 復入声ニカヘルト訓スルトキモ モト出タル所ヘカヘルヿナリ

列子 須臾之忘可復得乎 仝 水火豈復可近哉 可復ハフタヽビスルヿカセラルヽヤ之

復可ハセラルヽヿガフタヽビアラフヤ之

不可復讀 ヨムヿヲフタヽビセラレヌ 不復可讀 ヨマルヽヿフタヽビナラヌ

復不可讀 ヨマレヌモノニマタナツタ

無復所用 復字ソノ物ニカヽル 復無所用 復字ソノ人ニカヽル

無所復用 復字用ルワザニカヽル 無復用處 用ルバシヨノ地ガナイ 無復有所用 用ルトコロ

有ルカト尋テモナイ

難復遇 フタヽビアハレヌ 亦難遇 コノ二モマタナリ

復欲得 復字其人ニカヽル

欲復得（復字其事ニカル）　非復　雖復　猶復　復何（三ノ句脩複用ノ例ナリ）

亦（モ　マタ）　亦者比其象以匹之之辭

亦ハカタ〳〵ノ物ニ比シテコレモ〻タト云意ナリ文面ニ比スル者ヲクラテモ幽界ニ物ヲ持テ比シテ亦字ヲ置ク一段ニ入ル字意ナリ

論語　不亦說乎（文面ノ外ニ說ヲ立置テ亦ト云タルヽ）　似亦無害（害ヲ〻キモ〻タヽ）　亦似無害（似タルモ〻タヽ）

襄七　公登亦登（登ルヲ孫文子モ〻タセンナリ）

複用　大戴禮　丘則否能亦又不能　大戴傳　其吏卒亦輒復盛推外國所有

昭六　晉侯將亦弗逆（昭十三）　雖亦不許君庸多矣（句腰複用ノ例ニテ亦字上ノ文ニカヽル）　亦雖（亦字下ノ語ニカヽル）

亦字ハ段コシ入テ深キ字意ナル故ニ上ニ無字不字アルハ反語ニナルヽ

不亦難（難キナリ反語ヽ）　亦不難（難カラヌナリ）　不復難（〻タ難カラヌナリ）

不亦可乎（可ナルナリ）　亦不可乎（不可ナルナリ）

孟子　不敢以寡亦不足弔乎（此ハ上ノ語勢ハケシキ故ニ不足弔モノニシテ云カケタルナリコレ奇法ヽ粗率ニ見ルベカラス）

魯語　無亦置其同類以服東夷而大攘諸夏將天下是主

周語　無亦擇其柔嘉選其馨香（上）　有亦（無亦ト同ク反語ナリ來詩ニ時未識鳳凰有亦）

學不徹（トアル）ハ問ノ語ナリ

又（イウ　ヽタ　上声）

又ハ外ニヽタヒトツカフ云コトガアルト二ツ並ヘテ共ニ主ニシテ言フ時用ユ

又ハ上ノ語ニツキテタレニヽタカフイフコトガアルトイフナリサフ有テヽタカフアルナリ
亦ハ下ノ語ニツキテ見ヘシ亦悅ハ悅ブコトガモヽタヽ亦過矣ハ過ニスルコトガモヽタナリ

隱三　祭足帥師取溫之麥秋又取成周之禾　祭足ガ又スルナリ取コトノヽタニハ非ス

桓五　祝聃射王中肩王亦能軍　能軍ガモヽタナリ王ノヽタスルニハ非ス

昭二十六　將九子又叱之亦叱之　又ハ其人ガヽタセシナリ亦ハ叱スルコトヲコチラカラモセシナリ又亦ノ別ニテコノ例ナリ故ニ不亦說乎トハカケテ不又說乎ト書ケルナリ能深ク味フテ辨別スベシ

定五　焚之而又戰　ヽタヒトイフナリ　哀三　丙戌復戰　モトノトコロニ戰フナリ

文王　及日中又至亦如之

隨騎布承傳　固已疑其言國陰事漢使又來　又漢使來ノ意ノ亦字トレハ漢使モヽタナリ

又ト且トノ別ハ又ハヽタカフ云コトガアルト立ナラベテ共ニ主トシテ言フ時ニ用フ且ハソノウヘニカフ云コトモアルトイヘトモ云辭ヘ且字ノ下ノ語ハ客ニシテリテ輕クトヽヘ且字下ニ詳ク三字並見于前

且（シヤ　ヽタ　カツ）　加（カ　ヽタ）　翻（ホン　ヽタ）

ヽタト訓スル複用　亦複　還復　復還　且復　復亦

又復　亦又　又兼　コレラハ上ニアルトキハ句頭複用ナリ句ノ中間ニアルハ句腰複用ノ例ナリ

○始初肇甫　造昉在昔

始（シ　ハジメテ）

始ハ終ノ反ニテ事ヲ仕ハジムル用ヲ云

對終啓其所基址曰始

隱五初献六羽始用六佾也　初ハ廟ノコトヲサシテ云
始ハ用ル人ニナリテイフ

初　ハジメテ

指彼之所興端緒曰初

初ハ後ニ對シテ其ハ最初ノコクチヲ云　始ハ用ニテ我ナリ
初ハ体ニテ彼ナリ

宣十季文子初聘于齊　彼齊侯ニ於　襄七郯子來朝始朝公也
テノハジメナリ

我魯侯ニ於
テノハジメナリ

隱元初鄭武公娶于申　今年ノコトヲ中ニ立テクシヲ主
シ以前ノコトヲ客ニシ引クナリ

汲鄭傳始翟公為廷尉　コレハ事ノ始終ヲ順ニ記シタルユヘニ下文ニ
後寢ト云ヒアルニ應ジテ始ヲ始ノリ

肇　ハジメテ　又作軍　ハジリヲナシ訳　紀其艸昧之趨於動曰肇

肇ハ也然トシテ〻ダ開ケカヽル始ヽ　大雅　后稷肇祀

甫　ハジメテ

甫ハ父ト同音ニテ其本トナリテ末ヲ生スル意アリ

在其元以待支流曰甫

周礼　ト葬兆甫竈

造　ハジメテ

造ハ今ヘデナキコトヲ新規ニハジメルヲ云

闢之以有作曰造

伊訓　造攻自鳴條朕哉自亳　哉　ハジメ　見于前

昉　ハジメテ　上声　通作方

昉ハヒヽソレニ向フナリ　日出ノ始テ明ナルヲ昉ト
ヨリ轉用シタルナリ

響其將益然曰昉

列子衆助同疑ヲ載ハ見于前　嵩ハ高ノ義ナリ

在アリ オイテ　ニアリ　眡其所止地位示之之稱

在ハ其地位ニツキテイフ　在ハ助字ニ非ス　所ニツイテ二録ス

在昔時世ヲ指テ云　昔在其人ヲ指テ云　所在其物ニツキテイフ　在所ソノ地位ニツキテイフ

有アリ

有ハ其物ニツキテイフ　對無示其可實曰有

有ハ不惑者今ヒトリアル　有不惑者モシヒトリアラバ　不可一有闕ソノ一々ナリ　不可有一闕カタタルヲガ一トシテナリ　不可有闕字全体ヲ云ナリ

隱元有文在其手曰為魯大人　檀弓子可謂知禮也已

恭敬之有焉　論語苗而不秀者有矣夫　有字上ニアルハ皆有ノ義ニテ多クハ無キカノギニナリ

有苗而不秀者　有字上ニアルハ今有　北史内外擊之有何不

濟ラ成ル　五何盟之有　子老吾有何患　論語何有於我哉

有字上下ノチカヒ皆上ノ例ト同シ　孟子子殺其父者有之　以前アリ　檀弓有殺其

父者今有　子墨太上無敗其次敗而有以成　有以字句腰復用ニテ以字

上ノ語ニカヘリ有字成ニ係ル　而以有成　而以二字複用ニテ以字上文ニ係リ而字有成ニカヘル　十有一年

十トカヘリ終リノマタ一アルナリ　存アリ　白之反　若ジクアリ　入声　逗トウアリ　トヾリテアル

○任耐勝堪　懟強咋逅

任（タヒ 平声）

任ハ身ニヒツカケテスルヿナリ

耐（タヒ 去声）

耐ハヂツトコタヘテ居ルヿ

能（タヒ 音耐）　与耐同

勝（タヒ アヒテ 平声）

勝ハオサヘテ其上ヘユク意ナリ

傳 鵩鳥賦 漢馬不能冬々

比較之可以有尚曰勝

傳 鵩 病不任行

被之囿可久持曰耐

後漢西羌傳 堪耐寒苦同之禽獸

昭四 張匈不勝其怒　孟子 材木不可勝用也

堪（カン タヒ）

堪ハコラヘテ其ヿヲナシトゲルヿ

忍之許其有成曰堪

忍（ジン タヒ）

ムコヽロニタヘスヿ

傳 十二 君欲已甚其何以堪之

禁（キン タヒ 平声）

ーメテ外ヘモラサヌヿ

懟（ギン ナヤシヒニ チカハクハシヒテ）　又作懟 セメテハト訳ス

懟ハセメテハト惜ム辞ナリ

懟者情之欲僅有為之辞

小雅 不懟遺一老

晉語 懟庇州犂

強（キヤウ シヒテ）

勸之要其過分曰強

強ハムリニシヒルナリ

成二君弱者強冠之

昨 アカラサマニシバラク

ウタ〻ト訳ス 言發於偶然曰昨

昨ハ心ニ根ナシテヒヨウト言ヒ出スコトナリ 作ト同音ナリ

八完 桓子昨謂林楚

逅 アカラサマニタ〻ク

事遇於意外曰逅

逅ハ思ヒガケナクヒヨツト出テクルナリ

暫 アカラサマニシバラクノ意

○長毎恒常 値會脫偶

長 トコシヘニ ヒサシクノ去声

イツモテモト訳ス 相持之久曰長

長ハイツマデモカワラヌ意ナリ 來ニ用ルトキハトコシヘニト訓ス 往ニ用ルトキハヒサシクト訓ス

龜臣長不復見左右 商ヒサシク 須長發其祥

永 ナガク ナガク引ノ入ナリ

鎮 トコシヘニ 要按厭不動曰鎮 去声 トコシヘモト訳ス

鎮長 鎮日

毎 ツネニ ツヒニ

數其所當曰毎

毎ハソノタビゴトニナリ

毎各 毎輙 毎必

恒 ツネニ

イツモノゴトクナル

恒ハイツ出テ來テモ同樣ニナルト云意ナリ

不易其守曰恒

元楚國之舉恒在少者

常 ツネニ

アラヌヿト訳 生平所事事曰常

常ハ旦暮ハナレス身ニ附テアルナリ

列子 有不常勝之道 常不勝之道曰強 不常ハタヾクカツヿモアルヽ常不ハトンヽトカツヿナキナリ

居恒 居常 終古 ツネニ 終古ハ昔モ今モカワラヌヿナリ

値 タヾ

チヨウト訳 忽已丁其時曰値

値ハ其時節ニ出合タヿナリ

會 ヱ 両事ノ出会ヲ

戦国策 前 適ハ一事ヲ三ツフト出合タルヿヲ會ハ両事ノ出合ナリ

後漢書 適會閩越王弟餘善殺之以降 屬適

脫 タヾ モシ

脫者虞其出於格外之辞

脫ハ常ニハヅレテカフ言フヿガアラバトヽ意ナリ

晉張載傳 明公脫未之思 吳子 脫其不勝取笑於諸侯

偶 タヾ

下 契 不料而會之曰偶

偶ハ思ヒヨラズフトアリタルヿナリ

楚策 偶有金千斤進之左右以供芻秣

遇 タヾ 因 タヾ 適 タヾ 屬 タヾ 並見于前

○抑或果苟 即儻設試

抑 ソモ〻

抑ハ揚ノ反カリ上ニ言タル語ヲ抑ヘオキテサテオモカヘレテ言フテ見ルニタカフイフ理ガアルト云意ナリ

抑者退之而別設異見之辭

抑ハ上ノ語ヲ反ス語ナル六発端ニオクナリ

論語 與之與抑求之與

十月 麥抑 此章首アル上章ノ語ヲ承テ抑ト云タリ発端ニハアラス

抑 偏 莊六 鄧侯曰人將不食吾餘對曰若不從三臣抑社稷實不血食

抑字上ノ鄧侯ノ語ヲ反シテ若不從三臣ノ意ナリ

或 ハ ミレク

有ルヿノ一ニ定ラヌヲ云 モシクハト訓スルモタシカニ定リタルニハアラス特ニヨリテアルトキハト云意ナリ

語其有時殆將然曰或

莫之或止 之字活 莫或之止 或字活 動ス 未或之先 未之或先 未或先之ナド准知スヘシ

四 或者其君實甚 累殆皇用本紀 或默或言焉

下ノ語ニカヽル 或恐 或字下語ニカヽリ恐字上語ニ係ル 雖或或雖猶或 苟或ナド准知スヘシ

恐或 或字上語ニカヽリ恐字

果 ハタシテ

果ハ上ニ言フテアルヿヲ言フトオリニ埒ツケルヲ云 果ハ多モノト訓ズ凡木ノ子ヲ實トイフ既ニ熟シテ可食トコロニテ果ト名ツクソヨリ轉用シタルヿ

決致之其熟曰果

果不用 彼ガ用ヒルヿヲセスヽ 不果用 我用ヒルヿヲセスヽ 其人ニヨリテイフ

果如此矣必濟

果 コレヲ熟スルナラハ 苟如此矣 カリソタニモタヽスルナラハ 誠如此矣 コレヲトコヽデエツケルナラハ

中庸果能此道矣雖愚必明　此道ヲヨクスルヿヲ果スナラバト今ヨリ占メテイフナリ

僖二十二晉侯在外十九年矣而果得晉國　既往ヲウケテ今果シテナリ

苟　イヤシクモ　モシ　カリソメニモト訳ス　草次為之曰苟ト

苟ハカリソメニモカフナシタラバト彼ニ向テ言聞ス辞ナリ

無苟死　死スルコトヲメツタニハスルナ　苟無死　先ヒカメシニ死ナスニオイテ　不苟　苟不モユレニ准ス

王風苟無飢渴　曲礼臨財毋苟得　全不苟訾　苟且　カリソメニチヨツト

郎　モシ　ギキ　真コトヲシテ見ルヽ　タラバト訳ス　義見于前

苟ハ彼ニサセテミル即ハ我ヨリ其コトヲナシテミル對ナレニミヲ如若ハ比較シテ其形色ヲ言ノミナリ

秦郎天下有變王何以市楚也

儻　モシ　タマ　コヒ子カハク　俗作倘　ヨシ　訳ス　擬什伯中或有偶然曰儻

儻ハ千ニツモ此コガアルナラバヽ　集傳儻所謂天道是邪非邪

設　モシ　サカト訳ス　模稜而陳之曰設

設ハ今ハナキコトヲナレドコレラヘテ言テ見ルニナリ

周策設以國為王打秦而王無之打也

試　コロミ

試ハチヨツト其コトヲシテ見ルヽ　使為之以量其能曰試

平原君傳雖然試言公之私

嘗　見于前　其事ヲ嘗テカタミニテ見ルト云意ク　腹雅嘗試論之

○審就如若　縱借假譬

審　モ

審ハ其委曲ヲ心ニカガヘテミレバナリ　窈察其或然曰審ト

王商傳　審有内乱殺人怨懟之端

就　タトヒモシ　彼ニツキテ言テミルナリ　就義見于前

後漢胡廣傳　就值其人猶非德選　後漢霍諝傳　就有所疑當求其便安ラ

如　モシ　オリモシバト訓ス　義見于前

如有　アルトオリニシテ見タラバ　有如　ソノヤウニオリナバガアルナラバ

漢書傳　公叔病有如不可諱將奈社稷何

若　ヒシモシバ　ヒノナラバト訓ス　義見于前

說命　若歲大旱用汝為霖雨

若モシクハト訓ズルモ同義ナリ　若ト或トノ別ハ若ハアルイニシヘノオキテ云或ハアルカナキカ定ラヌコトモアルナラバト云意ナリ　若ハ一處ヨリイタツニモワケテ言フ或ハイタツニモナリテアルヲコヽヘヨセテ言フ

照勝信　若子若孫若同産子

猶　モシ　義見于前　タヾモトツヲミテノ意ナリ

内則　子弟猶歸器衣服裘車馬

則必獻其上而后敢服用其次

誠 モシ 義見于前 ドコニデモツヽクナラバナリ 複瀛如誠得水可令畝千石 用志

モシ訓スル複用 若儻 脫若 若誠 如誠 誠卽

第令 假令 向使 向若 假設 設為 設令

藉令 藉使 但令 但使 且誠 且如 譬使

假若 如使 卽使 ヽヽ句頭複用ノ例ニテ見ヘシ

縱 タヽヒ 去声 通作從 ヨシカヲル氏ト訳ス

縱ハサヲハナラヌハヅナレ氏ソレニシタトコロカナリ

縱者欲飜之而先設其當之辭

宣二從其有皮丹漆若何

旌十四 縱弗能死其又奚言

借 モシ タヽヒ 去声 藉同 シヤ

彼之所姑處可詰曰借

借ハコヽニナキヨリ外ヨリ取來リテ云

大雅抑 借曰未知亦既抱子 賈誼過秦論 藉使子嬰有庸主之材

假 カリ モシ シヤバ

我姑設之待其詐之曰假

假ハ真ノ反ニ實ハナキヨナレ氏カリニ斯云ヘナラバナリ 假ハ体 借ハ用

借假ハレメバナリ雲ガナキナラバ月ガ見ヲルヽト云トキハ借假ナリ

縱ハレム氏ナリモレ雲ガタヲ氏月見ルコハナラヌト云トキハ縱ナリ

管晏傳 假令晏子而在余雖為之執鞭所忻慕焉

辟言（タトヘハ）

以此比彼之稱

辟言ハ外ノ一ヲタクラベニ取テ言フナリ縱借ノ類ニ非ス（タトヘゴトナリ）

南越傳 成敗之轉辟若糾墨

○嚮匹使令　遣教俾致

嚮（キヤウ タトヒ サキニ モシ）　通作鄉歸向

模其往之或處此曰嚮

嚮ハ既往ニムカフテ云

秦策 向者遇桀紂則殺之矣

向者（サキニ）　鄉（サキニ）也　曩者（サキニ）　日也（サキニアス）　往昔（サキニ）　往者（サキニ）

匹（ヒツ タトヒ タトヘハ）

冀比耦之曰匹

匹ハコレニ並ヘテ見ルナリ

匹如（ヒツシテ）　匹ハタトヘルナリ如ヲ加レハモシモノ意ヲ帶ルナリ

正（セイ タトヒ マサニセンメバノ意ナリ）　見于前

王莽傳 馬正（タトヒ）有它心宜令州郡且慰安之

任（ジン タトヒ）　見于前　ソレニマカセテモト云意

鐃（ヒヨウ タトヒ）　縱而持之曰鐃　ソレニチガヒテタヒモト訳ス

タトヒト訓スル複用　縱使　縱令　縱遣　縱鐃　就使

就令　借使　假如　假之　籍令　正使　正是

向使　鄉令　向者　借曰　雖使　雖令　即雖

雖就　雖即　只使　假而（柳文ニ出）　ミナ句頭複用ノ例ナリ

使（シム）　サセルト訳ス　使者運動之之辞

使ハ我ヨリ指揮シテ彼ニカフサセルヘ使介ノ使ヨリ轉用シタルナリ

成十四　吾不獲鱄也使主社稷　コノ使字ハ群臣ヨリ使主ヘ使鱄也主社稷トアレハ使字夫人我ヲシテ使ルニアルヘ

礼運　聖王所以山者不使居川不使渚者居中原而弗敝也　不使字上ニアルハ彼ニカヘリ下ニアルハ我ニカヘル

字我ニカヘリ不字彼ニカヘル

使無　無使　上ニ同

令　レイ　平声

ナラセト訳ス　令者抵致之之辞　使ハ体ヘ令ハ用ヘ

令ハ一ワリヽテ彼ニカフナラセルナリ　号令ノ令ヨリ轉用セルナリ

魏其傳　案灌夫頭令謝　周礼　令五家為比使之相保

世説　使吏送令歸家

遣　ケン　ヤリオクト訳ス　遣者任委之之辞

遣ハ指揮ノナサヽヤリ放シテ彼ヽニサセルヽ　ツカワスト訓シテ出ル処ヲ見テイフヘ

淮陰侯傳　乃遣張良往立信為齊王

教　カウ　平声　サトラセルト訳ス　教者指揮之之辞　遣ハ体ニイフ教ハ用ニイフ

教ハ我ヨリ指揮スルノミヲイフヘ陰ニテヒソカニスル意アリ

韓非子　進則教良民為姦退則令善人有禍

傳五　子金教之言曰

復　用　劉傳　教令人言變事

俾（ヒシム）

十七セテ万ヘ訳　俾者引此以及彼之辞　俾ハ来ニ属ス

俾ハ畢竟サフナラセ尖リ　古ヨリ俾字ナルコシムト云テソレヲツカフテ遠キニ及ハセハ意味ナリソノ処ニイタラシムルナリ

引ヨセテシムルキミ之ヲ將来ニナラセルナリ

風衛　俾也可忘

秦誓　違之俾不通

致（ナシム）

致ハ段ヲコヘテ至ルヲ云

ニ句頭複用ノ例ニテ見ルヘシ

ニト訓スル複用　使令　俾令　教令　致令　致使

来彼於此曰致

複用　秦紀　遂致使御而妻之

○葬伻作為　庾幾上冀

葬（シム）

葬ハ使字ノ用ヲ云ナリ

小雅　桑柔　云不逮

伻（シム）

伻ハ葬ト同義ニシテ小重ニ葬ハ意淺ク濁ハ者ハ意深重ナリト知ルヘシ

伻者葬之深也

洛誥　予齊百工伻從王于周

作（サシムナスタリ）

興以從事曰作

作ハ其事ヲシオコスナリ体ニ属ス　ナスト訓スルモ同意ナリ

周礼 會同朝覲作大夫命 儀礼 作上耦射

舜典 伯禹作司空 文七樂豫為司馬 作ハ外ヨリイフ 為ハ其人ニアリテイフ

爲 イム タリス 平声

為ハ其コヲナレテ居ルナリ用ニ属ス

動以致用曰爲

晉語 爲後世之見之也 注為使也 按スルニ此章注ニ従テ イムト訓スレ共 此為字ハ去声ニシテ讀ムモ亦可ナラン

莊子 與人為妻寧為夫子妾 人ニ求ラレテツマトセラレンヨリハ我ヨリ奔テ夫子ノ妾トナラン

成二 范文子後入武子曰無爲吾望爾也乎 無為ブガヒナクト訳ス

毋爲 アダキナ 無狀

庶 シカ コヒネガハクハ

ナカラントスルト訳ス 殆將与彼匹曰庶

庶ハ同シモノニナラントスルヽ 庶モロクト訓スルトキモイロク品カウリテアリテモ大抵ヒトシ位ノモノト云義ナリ

停五 庶有益乎 晉書 礼志 敢庶茲乎

幾 コヒネガハクハ 平声

ナリカハト訳ス 其將洎之所関係曰幾

幾 チカシ ランコヒネガハクハト訓スルハ平声ニテサフナリカヽツテアルグ

アヒノ所ノ神用ヲ云ナリ 易ノ見幾而作ノ幾字ナリ

疏廣傳 子孫幾及君時頗立產業基阯

複用 周頌 庶幾夙夜以永終譽 夙夜ノ字上ノ文ニカヽル 夙夜庶幾 夙夜ノ字下文ニカヽル

上　コヒ子カワ久ハ　尚同　去声　ヽダト訳ス　尚義見于前

媿　上慎旃哉　複用　後漢明帝紀　儻尚可救

冀　コヒ子カハ久　コヒヽ子ト訳ス　用意俟其若是之稱

冀ハコヒヽナスルナリ

汔　コヒ子ガワ久ハ　見于前　ホトヽヽ訓スルト同意ナリ　武帝紀　冀遇蓬萊　小雅　汔可小康

○許頃所可　空虛姑薄

許　ヤガリ同　斥其所位忖度之曰許

許ハ其程ノシカト定ラヌヲ云

百許里　彼ノ体ニテ云　百里許　我イヽ計リテイフ

古詩　河漢清且淺相去詎幾許　イクバク　許多　若干　若字ノ下ニ出

頃　ハカリ　バラク　ヨホドノヽト訳ス　畫其間計量之曰頃

頃ハバラク經タル間ヲ云久ノ反ナリ　食頃　食スルホドノヽ

所　バカリ　ソレホドノバショト云フナリ　義見于前

史記　世家　父去里所復還　食合傳　受讀解驗之可一年所

可　バカリ　サウジヤトセラルヽト云意ナリ　義見于前

大宛傳　去漢可萬里　所ハ明界ノバショヲ立テヽイフ　頃ハソホドノ間ヲイフ　可ハ幽界ニテ思ヒヤリテイフ　許ハソコラクニテヒダテイフ

可字ハ上ニオク所頃ハ下ニオク
許ハ上ニモ下ニモオクナリ

如ジョ バカリ 見于前
ゴトシト訓スルト同意ナリ

孟嘗君傳 出如食頃

空クウ ムナシク
スカシト訳ス

無所捉搦曰空

空ハトラヘ処ナキヲ云

虛キョ ムナシク

田廣明傳 引軍空還

梏濶無見存曰虛

虛ハ實ナキヲ云 空ハ用 虛ハ体

漢司馬相如傳 虛藉此二人為辞

素ソ ナシ 見于前

徒ト ナシク 見于前
イタヅラニノ意ナリ

表二十五 齊師徒歸

姑コ シバラク

姑ハ、アクチョツトノ間ト云意ナリ

苟且待之曰姑

姑少待我 周南

我姑酌彼金罍

薄ハク シバラク イタル

薄ハ今シバシト云キミナリ

前後相逼之間曰薄

召南 言還歸

少セウ シバラク スコシノ、ヲ云 見于前

間カン シバラク 見于前

有間

頃之 レバラクアツテ

暫而 シバラクシテ 暫ハ日ノ前ノ明界ライフ字ナリ

少之 シバラクアツテ

少焉 シバラクアツテ

少選 シバラクアツテ

五輔之以晉可以少安

○凡鼎率槩　抵歸類約

凡 オヨソ スベテ　オヨソ大ヘテト訳ス　輯其所統平之曰凡

凡ハ一通リノ処ヲヨセテイフナリ　凡庸ノ凡ヨリ轉シタルナリ

鬼谷子　爲人凡謀有道　凡字謀ノ一字ノミニカカル　凡為人謀有道　凡ノ字ヒロクスベテ人ノ為ニスルヿニ係ル

鼎 サイ スベテ オヨソ　大ヅタミト訳ス　義見于前

衛書傳　最大將軍青凡七出擊匈奴　複用傳　最西域凡國五十

連 オヨソ　見于前　タヾミカサネテト訳ス　列子連於形物亦然

應 オヨソ　見于前　たゞベヨリ轉シタルナリ　唐職官志　應宗室賜名

百 オヨソ　カズノソロフタルヲ云　百爾　凡百

率 リツ オホムネ　入声　アラヒメート訳ス　度其大節均之曰率　律ト同音ニテ義通ス

率ハ大ツヂノトコロナリ

貨殖傳　食租稅歲率戶二百　複用傳　周　大抵率寓言也

槩 ガイ オホムネ　又作概　ナラヒト訳ス　量其所出入略之曰槩

槩ハマスカケノコヽ因テ打ナラシタル処ヲ槩上云　梗槩　梗ハオホスヂナリ

抵 テイ　氐底同　オホカタト訳ス　推其所頓當充之曰抵

抵ハ大カタヲミラノコト、推ハカリテ云ヘ抵ト率トハ彼ニツキテイフノ槩ハ我ヨリナラシテミテイフ

叔孫通傳 頗有所増並減損大抵皆襲秦故

歸 オホム子

歸ハ其主意ノアル処ヲ云ナリ

趣向本處曰歸ト

王莽傳 大歸子 言莽當代漢有天下ヲ

オホヨソト訓スル類 大凡オホヨソ 大要ソ 大略ソ 大較ソ 大計ソ

オホム子ト訓スル類 大率子 大槩子 大抵子 大底子 大氐ヒ

大歸子 大都子 大約子 大梗子 大要子 オホフシイト云詞ハ之ヲ事物ノ上ニ総ス体ヘ

オホム子ト云詞ハ之ヲ意音ニカケテ総ス用ナリ

類 オホム子

區別於域中曰類ト

類ハワカレアリテモ外ニハナラヌヲ云

酷吏傳 大抵吏之治類多成由等矣

類舉 類皆

約 オホム子 ホボ

大ヌリト訳ヘ 占其括要曰約ト

約ハタヽリヨセルヲ云

抱朴子 鍊金内清酒中約二百過

致 オホム子 ソノヲモムキヽ

較 オホム子 タクラベル意ナリ

並見于前ニ

○慮諸統合 總切粗略

慮（リヨ）スベテ

慮ハノコラズ我工夫ノ中ヘ引入テ見ルヘ（無慮ハアヤマリ多クテ工夫ノトヾカヌ処ヲ云無字無数ノ無ト同シ）

悉滙之我所億念曰慮

賈誼傳　慮（スベテ）不動（サ）於耳目　食貨志　天下大抵無慮（スベテ）皆鑄金錢矣　七慮トモ用

荀子　焉慮率用賞慶刑罰勢詐除扼其下獲其功用而已矣

諸（シヨ）（オヨソ）モロ〳〵　イロ〳〵ト訳ス　連其所（ヲ）各列（スル）曰諸

諸ハイロ〳〵アルヲ集メテ云

荀子　諸（オヨソ）去大軍爲前禦之備者

統（トウ）スベテ　以一管（スル）衆曰統（ト）

統ハヒトツニシテイフヘ　通監　統舊國五新國三凡（テ）八大國

合（ガフ）スベテ　此ニ彼ロアハセテヒトツニスルナリ　義見于前

合ハイクツモアルニシテソレヲ合セルナリ

三皇本紀　凡（ソ）一百五十世合四萬五千六百年

都（ト）スベテ　義見于前　ヨセ合シテ訳ス　列子　都（テ）無所愛惜（スル）

渾（コン）スベテ　ヒトヽルメニト訳ス　殊（シユ）スベテ　見于前

總（ソウ）スベテ　シメテト訳ス　輯（テ）而括（クル）之曰總（ト）

總ハフサト云字ニテ其本ヲクヽリタル意ナリ

切（モロ〳〵）去声音砌　上サステ訳ス　籠掩衆多ヲ曰切

切ハモロ〳〵ヲコメテ云　李斯傳　請一切逐客ヲ

粗（ソ）ホヾ　又作摘麤（ザツト）訳ス　率然未及粹密ヲ曰粗

粗ハ一事ノ上ニテソサウナルヲ云精之反ナリ

司馬相如傳　請為大夫麤陳其略ヲ

略（リヤク）ホヾ　アラマシト訳ス　簡乎遺其縷曲ヲ曰畧

略ハ敷アル中ニテ取シメヲ云詳之反ナリ　粗ハ用畧ハ体

張耆傳　略是紀征和以來ヲ　荀子　大略君人者隆礼尊賢ヲ

○幾豈巨寧　孰疇誰各

幾（キ）イクバク　アニ　上声　所籌難直斥曰幾ト

幾イクバクト訓スルトキハ上声ニテ數ノシカト定ラヌ処ヲサスヘ

幾何（イクバクハク）　幾多（イクバクハク）　幾許（イクバク）　幾詎（イクバク）　幾所（イクバク）

北史盧玄傳　樂為此者詎幾人也（ソヤ）

幾アニト訓スルトキハ豈ト音近シテ通シタルナリ

荀子　幾（ダ）直夫匈奴之縣糟糠（ノミナヒ）爾哉

豈（キ）アニ　イトヽト訳ス　豈者撿詰（キ）以反覆之（スル）辞

豈ハカヲデアル、去テモドフデカフデハアルマイト云意ナリ　覬覦シテ其釁ヲ伺ヒ指ス意味ナリ　豈ハイツニテモ相手ヲトリ、テ論シ詰ル辞ナリ

豈然然ルヲ云人ヲ立テ　豈可得乎可得ト云人ヲ立テソレヲ詰ルナリ

襄二十五　亦唯天所授豈必晉　昭九　文之伯也豈能改物

已上ハ豈字ヲ用ル正法ナリ

桓十三　夫豈不知楚師之盡行也

成二十七　豈無備而能出君乎　蔡沢傳　豈非士之願與

僖五　晉吾宗也豈害我哉　游俠傳　豈非人之所謂賢豪閒者邪

已上句尾ニアル也乎与哉邪ナドノ字ヲハナシテ文義ヲ見ルベシ其スチワケニ也字ヲ加ヘ人ニ云カケルニテ乎字ヲ加ヘ向フニ

奈ニテ与字ヲ加ヘツヨク云タヽ哉字ヲ加ヘ疑フテ邪字ヲ加ヘタルヽ

魏其傳　太后豈以為臣有愛不相魏其　龜錯傳　爰古乱常不死則亡豈錯等謂邪　曹参傳　豈少朕與　范雎傳　孺子豈有客習於相君者哉

已上ハ反語ニアラズコレハ臣有愛不相魏其トヲモヘルカヨモヤサズテハアルマイケレド、云意ニテ豈字ヲ置タルナリ　錯等謂テハアルマイケレド、云テ邪字ニテ一タヽレヲ返シタルナリ　餘ハコレニ准シテ推スベシ

巨　渠同

渠ハ彼ヲ輕シテコレ程ノ者トコナレテ言フナリ　渠者詰彼其所程分之辞

高祖紀　公巨能入乎　漢孫叔通傳　渠有其人乎

寧字　ムシロ　イヅクンゾ　カリニ　イツソト訳ス　寧者較以就所靖焉之辞

寧ハヤスズト訓シテ先ノ〳〵カナリニソレヘ落ツクナリムシロト訓ズルモ先カナリニ其方ヘツク意ナリ人ニ云カケル詞ノ時ハカナリニ其方ヘセラルヽヤト云意ナリ

寧ト豈トノ別ハ豈ハ歟ヲトリテ論ニツメタル辞ニテ辞緊シ寧ハ心ノ上ニテコノ地位ニ落ツカルヽヤ落ツカレヌヤト應ト言ヒタルニテ辞軟ナリ

昭十六　子寧以他規我　襄二十六　寧僭無濫

已上ハ寧字ノ正法ナリ寧ハ反語ニ非レ正下ニ乎邪ナドノ字ノ上ハ語勢ニテ反語トナルナリ

昭廿傳　帝寧能為石人邪　淮南王傳　吾寧能北面臣事豎子乎

コノ類ハソヒニ落ツカルヽヤト云カケタルニテ落ツカレヌト云意ニモドルナリ

無寧　ムシロ云云スルヽナカフヤト云フニテ云云スルニモドルナリ　毋寧　不寧　並ニ上ニ准ヘ知ヘシ

隱十一　無寧茲許公復奉其社稷　襄三十一　賓至如歸無寧菑患

襄三十一　先君而有知也毋寧菑患

昭元　不寧唯是又使圍蒙其先君

成二　寧不亦淫從其欲以怒叔父　コヽハ不亦トニ字ツヾキタル語ニテ上ノユヘ寧ハ一字ハナヽテ見ルヘシ

無乃　乃云云ナルヽカラヤノ義ヘ　毋乃　同上

昭元 其無乃是也乎

昭六 無乃戾也

聖十六 無乃亢諸 封禪書 欲封禪毋乃不可乎

莊子 無乃稱 コレハ乃余ゲ過フ過称スルニテハナキヤト云意ナリ 旧説ニ称スルヽナカレト説クハ非ナリ

孰 タレカ イツレカ

孰ハ二フレタワケノモノガト其用ヲ問フ辞ナリ 誰ハ体 孰ハ用

孰知之 用ノ上ニテイフ 誰知之 ソノ人ヲサス体ノ

孰其 其孰 句腰復用ニテ孰

其ハ孰字上ノ語ニカヽリ 其孰孰字下語ニカヽハ

孰大焉 用ニテ云ヘニコレヨリ夫ナル ハナレト云ヘニ ナル誰大焉ト書ハナシ

論衡 却強秦而全魏功孰大者 孰大 其大ト同シ ニテ孰ガ大焉ノ意ナリ

イツレト訓スル類 孰與 孰如 孰若 何與 西京賦ニ出

曷若 東都賦ニ出 曷如 奚與 孰与以下ミナ其事ヲ較ベ言ヒ辞ニテ其下ノ語ヲ主トシテ宜シトスルヽ

班固東都賦 建章甘泉館御列仙 孰與靈臺明堂統和天人 下語ヲ主トス

疇 タレカ タソ

疇ハ多クノワカレテアルモノヲ指スナリ

討其所畦分曰疇ト

誰 タレ タレカナリ

未審其人之為果之稱

誰何 タヾ何ゴトヾ トトガメルヽ

誰奈 タレモドフモヒロガ ナイトナゲク語ナリ

誰與 モヒロク誰ト定メフヽ

與誰人搏之（タレカ人ト其ヲ搏ツ之）　誰今聽之（タレカ今之ヲ聽ク）　誰今聽之（タレモ其人ヲ今誰聽之ノ意ナリ）

各（カノ　ヲノ〳〵）　メヽヽニト訳ス　物件皆異其所主之稱

各自（キヽク）　自各（韓文ニ出）　各各（疊用）

大命傳　今外國客徧觀各倉庫府藏之積

○詎矣那奈　奚曷何胡

詎（ナンゾ　タレカ）　通作渠巨遽（ドノクラヰト訳ス）　擬斥其所程分曰詎

詎ハソノ程ライラ指スヿ（カレタレト訓スルヿハ單用スルヿモアレドモナンゾトヨムトキハイツレモ複用スヽ其程アサマ字ナルヿヽ）

複用　列子　巨奚憂焉　賣傳　何渠不若漢　張儀傳　蘇君在儀寧詎

能乎（ヒ）　賈誼家　生此觀之何遽不爲福乎

李陵別蘇武詩　會見何渠央（央ハ半也旧説ニ渠央ヲ遽盡ト注スルハ非ナリ）

侯（ナンゾ）　的ニトリテ目アテニシテイフ意ヽ　侯義見于前

司馬相如封禪書　君兮君兮侯不邁哉（注侯何也　但コヽ外ニハ用タルヿナシ）

那（ナンゾ　イカン　上声）　ナンデト訳ス　那義見于前

那ハナンデアルゾト彼カ所ヲ失フヲ詠フ辭ナリ（那ハ外ヨリイフ何ソノ物ニテリテ云）

宣二年　犀兕尚多弃甲則那（ナンニテアルカ）

奈（イカン　通作柰　乃帶切又ノ箇切去声）　上モヒヨガイト訳ス　奈者嘆失所而奚嚮之辭

奈ハセン方ナキヲナゲク辞ナリ　那ハ彼ニシテ云　奈ハ我ニシテ云

奈（イカモ）ニ字ナレバ我心ニテドフモ（ショウガナイト）嘆ズル　奈何（何ヲ付レハ　モシヨウガナイ　トニヲ人ニ云聞ヘ意）

無奈之何（ドウモ仕ヨウガナイト人ニ相ダンノシヨウモナイ）　争奈（ドウシテモ）ヨウハナイ

嗚呼（ヲ）其奈何弗敬（敬ヨリ外ニ）ショウハナイ　淮南王傳　不可奈何願陛下

自寛（セウ）　莊子　奈何哉其相物也（ドウデモイカヌヤツノ物スルヲハ）

奚（ナンゾ　イヅク）　（ドコカラ出テキテト歎）奚者探其出自之原之辞

奚ハドウ云処カラ出テキテト歎　其根モトヲ推テ問フナリ

管子　太山之阿奚有於深（深ト云ハヤキト根ヲオシテ）何有於我（ハリハセヌト云ハカリナリ）

韓非　此道奚出　全　法術之士奚道得進（道奚ハ奚字イヅクトモ定ラヌモノニナルキテノ道ヲ得テイヅクトモ用ヲトフナリ）

曷（ナンゾ　イツカ）　運作過（コレニドウシテト歎）曷者懼其必難然詰之之辞

曷ハカフアルニトフシテ道理ヲツメテイフモイツシカト待ワビル意アリ

昭元　吾子其曷（イツカ）歸　荀子　彼固曷足稱乎大君子之門哉

害（タツ　イツカ　イヅレ）　与曷同　孟子　時日害喪（周南　害濟害ヲ）

イツカト訓スル類　曷（イツカ）日　曷時　久如　早晩　幾時

何（ナンゾ　イヅレ　イカニ）　ワガレヌト歎　何者告己未有定見之辞

何ハトカク入クミアリテワクノ知レヌ所ヲ問フナリ

謂何　何トモ言ヤウガナイ又何トイフタリ上云処ニモ用　何謂　何ト云ワケゾト問フナリ

何由　ナニニ

以何　ナニゴトヲモッテキテ

何以　ナニデ

何用　ナニノ用ヲ用テ

何所用之　用タツバシヨカナイ

晉語　荀息謂何

東朔傳　歸遺細君亦何仁也

任安傳　將軍而不知人何　カヤ乃家監ヲ

何曾　曷嘗

何也　何乎　何哉　何耶　何歟　也乎等ノ別上巻ニ出

者何

イカント訓ズル類

如何　イカ、イタサヅ　如何セント我コヲ人ニ問謀ル

何如　ドフイフコケゾ　此事ハドフデアルゾト問フナリ

若何　イカヾナサルヽゾ　若何スヤト彼ニ行テイフヘ

何若　イカヾノオボシメシゾ　彼ノ内ヲ問フナリ

如之何　ソレヲドフイフ処ヘモノシカノソ

若之何　ソレヲドフイフヨスヘセラハンゾ

タトヘハ戲場ヲ見ニ行ントスルカ行マシキカト我ニシテ問ヘバ如何ナリ　戲場見ニ行カ

戲場ヲ見ニ行ンハヨキカヨカラザルカト問フハ何如ナリ

シヤルカ行カンヤラスカト彼ニシテ問ハ若何ナリ

シバイニ行コフイカヾ思フテサラルヤト問ヘハ何若ヘ

聲世家　公曰易牙如何　易牙ヲ相ニスルコフイカヾヒラヾ

人ガラ相ニコクラシヤアシカラヾヤ

傳　呉起何如人哉

蕭望之傳　孝惠曰曹參何如曹參

僖十三五子取其麋鹿以間敝邑若何

晉五代秋病何如矣

定八

外傳 武王曰然何若矣

奚如根ハイカヤ ナルモノ 矣若根ハイカヤトセルゾ 奚何 秋ガ レヌ 云胡 カフイフニ ナセニ

曷若 ドウセラル 胡如 ウロニオル カイカ 云何 カフイフニ イカ 耐何 奈何ト同シ

而何 ワツカデ 何似 イカヤ 豈大宗 韓愈ガ詩ニ見ニ 爭如 イカヤ 難為 イカニセン

莊子 以夫子之行為奚如 櫃弓 欲暴虐而奚若 ニトセル

鄭風 既見君子云胡不夷 魏策 吾為子殺之亡之胡如

周南 云何吁矣 昭四 牛謂叔孫見仲而何 注ニ而何如何ヲ 同フスルハ粗ナリ

唐書 事已爾未耐何 ナセ

胡 ナゾ 胡者 ナゼ 其蒙昧未判之辞

胡ハウロンニテ分カラヌガテンヲカヌ又所ノ指ス ナリ

何ト胡トハ別ノ問ノ来カ様カノ例ニ用ヒ何ハ方今ノ処ニ用ヒ

管子 胡謂也 ヤツノウカラヌ ヌツメル ナリ 何謂也 ノ問ヒ ナリ

小雅 胡不萬年 ゼヒ ナ年ヲ ヨ ヤ 極十五 父一而已胡可比也

複用 小雅 胡寧忍子 胡為平 ナゼニ スルヤ 曷為 ノナニトレヌ 何為 ナニヲナニカ

奚為 ノトイフ処カラ ヨリセラレヌ 曷奚 カフニルニテ タトコロデ

○盍闔遐庸焉安惡烏

盍 ナゼカ ナゼ カタヘカイテ訳 盍者勸彼之宜爾之辞

盍ハカラスルガヨイト其ツヽリヲ言聞ス辞ナリ闔ノ義ヨリ出タルナリ何不二字ヲ輕ク軟ニ云タルアヽバイナリ

盍 カラスル ガヨイ 何不 ナゼカラ ヒヤズ 胡不 ナゼカラセ ラレマイヅ

奚不 ドフイフワケ デセヌヅ 曷不 ドフシテサフ セヌニハオラヌ

僖二十三 子盍蚤自貳焉

闔 カタ ナンセザル

闔與盍同

複用 莊闔胡嘗視其良 管闔不起為寡人壽乎

遐 カ ナヅ

遐者詰貌遠難度之辞

遐ハ遠ク分ラヌ処ヲ詰ルナリ 遐何音通ジタレモ遐ハ外開何ハ内閉合ニ来ル別ナリ

小雅只君子遐不眉壽 邶風不瑕有害ノ瑕字旧説ニ遐ト通ス非ナリ今不取

庸 ヨウ ヨウジ ニヨウスルヤト訳

庸容ニ通シテ上ニ置ク時ハソノコヲニヨウサルヤ元サレハセマイトスルニテ反語トナルナリ

義見于前

賈家 此天所置庸可殺乎 可殺上ニ置テヤラルヘヤ

複用 昭元 庸何傷 荀子 女庸安知吾不得之桑落之下

五 昭其庸有報志

莊子庸詎可乎

焉（イヅクニ）　バ憂ヒ歌　焉者提ヲ地位ヲ覆之之辞（反辞之焉）

焉ハ語尾ニアル時ハソレノトコロニト地位ヲスエルナリソレヲ語頭ニ

オケバ云云ノ〻ニ地位ガスエラルヽヤトニカケタルニテスワリハセス

ト云意ヲ持テ反語トナルナリ

凡ナンゾト云詞ハ問フ辞ナリ（イヅクンゾト云詞ハ咎ノル辞ナリ）

イツクンソハイツニテモ相手ヲ持テ論ヒメル程ノ意味ナリ

襄十二父戮子居君焉用之

安（アヽイヅクンカ）平声　ドコヲカト歎　安者詰彼其所奠地位之辞

安ハドコヲカトサガス意ナリコノ地位ニ安ンヒラルヽヤト云カグ

タルニテ安ンセラレハヒヌト云義ニ還ルナリ（焉ト惡ハ用ナリ安ハ体ナリ）

安在哉（ドコニアルヤトサガスナリ）　焉在（不在ト思コヒイフ）　何在（アルトコロ何カニマ）

韓非　今吾安居而可（カヲン）　然則寡人安所（ヲ）大仁安不忍人ニ

礫傳　言変事縦跡安（ヲ）起

惡（イヅクンゾ）平声　ドウシテト歎　惡者蔑視以壓之之辞

惡ハドフシテアレガサフナラフヅトコナシニイフ辞ナリ

焉惡ハ別ハ焉ハ相手ヲ持テ受テ論スル辞ナリ

惡ハ論スルニ及ハス我ヨリコナシテ言フ辞ナリ

聖六　爾幼惡識國　礼書無天地惡生無先祖惡出

烏イツクシク　ナントシテト訳ス　烏者嘆其懸遠邈絶之辞

烏ハ中ヽナントシテ其段デハナイト嘆ンテイフ辞ナリ　説文一烏所呼也

司馬相如傳　使者曰烏謂此邪　全　烏有先生

○嗟噫嘻戲　唉欸嗚呼

嗟サ　コヽヽヽ　コヽヽヽト訳ス　嗟者感發之聲

嗟ハコレハヽヽト感心シテイフ辞ヽ喜賞ニモ悲嘆ニモ用ユ

嗟夫　発語ニ用ルアリ　嗟乎　乎ハ人ニカケルヽ

周南　嗟我懷人　疊商頌用　嗟嗟烈祖

噫アハ　イヨノ平声於宜切　エヽト訳ス　噫者憤激之聲　去声ノ時ハ烏解切ニノ噫氣ナリ

噫ハ抑鬱シテ通シガタキ時ノイキドオリノ辞ナリ

論語　噫天喪予　梁鴻五噫歌　陟彼北芒兮噫

意イ　平声於宜切　与噫同　莊子　意毒哉

嘻アヽ　譆同　キイト訳ス　嘻者銘刻之聲

嘻ハ心肝ニ徹シテ腹ノ底ヨリ出ル声ナリ　笑嘻々トモ泣嘻々モ用

公羊　慶父聞之曰嘻　孫譆　善哉技蓋至此乎

戲（ア、）　戲同　タワムレト訳ス　戲者欷歔之聲

戲ハ驚惋シテ思ヒガケナク出ル声ナリ悲喜共ニ用ユ

咳（ア、）平声　チイエト訳ス　咳者怨恚之聲

咳ハ恨ミ詈ル声ニ王莽牙欬ノ欬ハ當作咳ナリ

莊子　咳我知之將語若　項羽本紀　咳豎子不足與謀

欬（ア、）去声　欬者懊憹之聲

欬ハ愁歎ノ声ニ欬平声ノ時ハ咳ト同シ去声ノ時ハ歎声ナリ字彙ノ注ハ混シテ別ナシ用ユベカラズ

楚詞九章　欸（ア、）秋冬之緒風　欸騫羊ト一モニ韻文ノ外ニハ用カタシ

嗚（ア、）烏同　クモサケモト訳ス　嗚者憂歎之聲

嗚ハ幽界ニテ目ニ見ヘズ遥ニ遠キ処ヘ心ヲ想ヤリテ歎ク辞ナリ憂悲ニノミ用ユ

呼（ア、）又作嘑通作虖　ヤアト訳ス　呼者嘆發之聲

呼ハヨヒカケルナリ怒ニモ畏ニモ用ユ嗚呼ト複用スルトキハ憂悲ニノミ用ユ

文元　呼役夫怒テヨブナリ　檀弓　曾子聞之瞿然曰呼畏レテヨブヘ

○叱咤騫羌　嚄咨都吁

叱 ア、

叱ハ訶ル辞ナリ

叱者呵咤之聲

趙策 叱嗟而與婢也

啞 ア、

啞ハ出カヌル声ナリ　鴉字ト同音ニテカラスノ如ク只アアト云声ナリ

啞者喑噁之聲

韓非 啞是非君人者之言也

謇 ケン ア、

謇ハトモル声ナリ

謇者礙訥之聲

楚辞 謇朝誶而夕替

羌 カウ ア、 スネル

羌者努強之聲

羌ハツトメテキバル声ヽ

楚辞 羌中道而改路

慶 カウ ア、 音羌　与羌同

楊雄反離騷 慶天悴而喪榮

嚄 クワク ア、

嚄ハ老人ノシハガレタル声ナリ

嚄者嗄渴之聲

外戚世家 帝下車泣曰嚄大姊何藏之深也

咨 シ ア、

咨ハ我心ヲ向フヘツケテ問フ意ナリ

咨者託囑之聲

堯典 咨四岳

嗞 シ ア、　与咨同

趙策 嗟嗞乎

都　ア、　ソレコソト訳ス　都者翕思之聲

都ハ向フト心ノ相合タル処ニ用ユ　皇陶謨　都亦行有九德

吁　ア、　フエノ　サリトハ訳ス　吁者蘊念之聲

吁ハサリトハト一ト思案シテイフ辞ナリ

堯典　吁嚚訟可乎　藥沢傳　吁君何見之晚也

アヽト訓スル類　數多キユヘ標目ニ畧ス

於　イヨ　見ニ于前　コバレヨニナリ　堯典　於鰥哉　陸氏音烏然ルニ於烏用ヒ処同ジカラスヤハリ如字ニシテ可カラン

猗　イ、　見ニ于前　ヨロクシク出ル声ナリ　莊子　我猶為人猗

緊　エイ　見ニ于前　心ニハシヨウヲ立テ云　襄十四　緊伯舅是賴

憖　キン　見ニ于前　ヒメテノト惜ム声ナリ　昭二十八　憖使吾君聞以為快

惡　ヲ　見ニ于前　平声ドフシテノト拒ム辞ヽ　莊子　惡惡可

猷　イウ　見ニ于前　心ニスヂヲ立テ云　周書　猷殷王元子

噬　ゼイ　見ニ于前　心ニカヽヱテ出ル声ナリ　烝　ジヨウ　見ニ于前　氣ノ結ホレテ出ル声ナリ

嗜　サイ　鄭重之声　子夜切　歎声ノ多キナリ　咈　フツ　愠拂之声　サハアラヌト彼ニサカフテ云ナリ

哀　アイ　心ノ内ニカナシムナリ　誒　ヤ　音希　イヤニオモフ辞ナリ

噓　キヨ　息ヲ吹クナリ　李白詩　噫噓嘘戲危乎高哉

複用

嗟乎　畢僧傳　嗟乎有故也

噫乎　河渠書　噫乎何以禦水

噫嘻　魯仲連傳　噫嘻亦太甚矣

於戲　周書　於戲前王不忘

嗚呼　檀弓　嗚呼哀哉尼父

於乎　於虞同　陸氏音嗚呼然ル所於嗚ヲ一ニスルハ粗ナリト謂ヘシ於乎ハヤハリ於乎ノ字義ニテ見ルヘシ

烏乎　嗚乎　嗚嘑　嗚虖　烏呼　之ナ嗚呼ト同シ

雅於乎小子

咨乎　秦傳　咨虖群公可不憂哉

猗歟　商頌　猗與那與

猗嗟　齊風　猗嗟昌兮

于嗟　周南　于嗟麟兮

于嗟乎　召南　于嗟乎騶虞

俗語助字

コノ下ニ載ル所ノ助字ハ小説俗語ノ字ニテ雅文ニハ入ベカラズ勿論皆出処アレド小説ノ引スルニ及ハズ只二三ノ熟語ヲ録シ俗譯ヲ附シテ初學ニ示ス

○馨麼地阿　頭邊許價

馨　古文ノ兮字ト同意ナリ　兮字ノ下ニ詳ナリ

世說　正自爾馨　余リト云テ語ニ餘韻ヲ含メルノ意　寧馨兒　コノヨフナ兒ト云フニテコノヨフナヨキ兒ト云意ヲコメタルナリ　コノヨフナアレキ兒ト云フニモ用ユ

麼（イナヤ 平声）　文ニテアリテ定ラヌ意ナリ　古文ノ耶字ノ意ト近シ

麼樣好（ドノヨフニシテヨカラン 怎麼好モ同シ）　什麼（ナニ）　作麼（ナンゾ）　幺麼ノ麼ハ上声ナリ

地（ナ）

バレヨト訳ス

特地（ワザワヒ 風ノ音）　田地（バレヨ 地位ト同）　刻地（見テ井ル ウチニ）　立地（タチドヒ 一ロニ）　一昧地（ハサン コウニ）　一地里（ヒトヘクリ）

拖拖地（引ハル ノニ）　撲喇喇地（クタクタト）　撲地（ハタト）　隱隱地（カスカニ）

阿（アク 入声ノ音屋）

物ノ名ヲ喚フ時發声ニ阿ヲ加フルハ詞ニヨリテ付タルヽ　晉人人名ノ上ニ阿字ヲ加フルハ古ノ於越ノ於ト同シクシテ北方ニテ平声ナルベケレドモ南音ハ清高ナルニ轉シテ入声ニナリタルカリ

阿堵物（コノ ヲナ）　阿正（ヲクサン）　阿姐（ヲ子 サレ）　阿哥（ヲニ サン）　阿主（ダン ナ）

阿老（ティ レウ）　阿蒙（コドモ）

頭（ウ）

向フタル所ヲ云　古文ノ旡字ノ意ト近シ

臨頭（マサカ ノトキ）　興頭（イリヽ タツ）　劈頭（ツキカ ケテ）　空頭（スカ）　一頭（タタテ ニハ 一向ト同）

二婚頭（ドコ メリ）　裏頭（ウチ）　探頭（ヒマ ワス）　當頭（正面ト云ト同）

邊（ヘン）

アタリト訳ス

這邊那邊（コヽ モカ レコモ）　旁邊（ソノ アタリ ソノ ハタ）

許（ヨカ カレ コノ ヒトコロ モト）　渠同　其程ヲアテカフテ云意ナリ

諸許（モロ〳〵）　裏許（コノ ウチ）　多許（バカリ）　許久（ヒサ シク）　許儂（ワレ）

縱許（タヾヒ）　何許（イカバカリ）

價（カ）　ホー、訳ス

天價哭（天ホドニナケク）　地價哭（地ホトニナケク）　山價海價（山ホドニ海ホドニ）

○恁儘做慣　件色上下

恁（ジン）　カヨフト訳ス

恁地（コノトホリ）　恁兒（同ト）

恁麼（ドフレテ）　恁樣人（コノヨフナ人ゾ）　恁地時（カヽルトキ）

儘（ジン）　盡同　ナンボフモト訳ス

儘力（オカラハイ）　儘道（タトヒ）　盡道（タトヒ）　儘着

做（ツクル）　ニスルト訳ス

看做（ミナス）　做主（サヽルヾスル）　做家（ヒツスル）　做一家（ヒトツニスル）

慣（クヒナラフ）　ナレコミナルト訳ス

慣看（ミナレル）

件（クダン）　ヒナト訳ス

両件（フタヒナ）　一件（ヒトヒナ）　那件那色（ナレデモカラデモ）

色（ショク）　其ヒナノ狀ヲ云（件ハ体色ハ用）　本色（モトノヒナ）　名色（イロシナヒナワケ）

上（ヒツ）　其事ヲ重レジテイフ意ナリ

看上（ミコ）　添上（ヒツ）一頂（一段ヒトアゲル）　晩上（バレタヲ）　個頭上（コノコト）

下（カ）去声　其事ヲコナシテイフ意ノ　刻下（タヾイマ）　調下（ナヲル）

勾下（テンカケル）　排下（ナラベル）　頻下（嚬ヨリアケル）　當下（ソノトキ）

○等底怎甚　那他這箇

等（トウ）ナニ　イカバカリト訳ス　朱博傳　是何等剌也（コノ等字ハイカバカリト其位地ヲ指シタル字ナレ共後世ハナニト訓スル処ニ用ヒテヲリタリ）　等閒（テウカリ）　等怎（イカンゾ）　用等（テウラ）

底（テイ）ナニ　ドコニデト訳ス　等ハ体底ハ用

北史徐之才傳　箇人諱底（北朝ノ頃ヨリ俗語ニ用ユトミヘタリ）　底事（ナニゴト）　到底（ドフシテモドコマデモ）

是底言　這箇靈活底（コノイキラハタラクホドノ）

怎（イカテカナンゾ）　古文ノ如何ノバルヨナリ

○怎地（ドフシテ）　怎生（同上）　怎奈（同上）　怎様（同上）

爭（イカンカナンゾ）　古文ノ奈何ノバヒヨ　爭奈（ナンテ）　爭如　爭若

甚（ナニ）　ソノ奥ヲヒドフ問フ意ナリ

莊頃間甚不庭乎（莊子ニアル共他古ハ用タルコトナレ共後世ニナリテ俗語ニ用ルナリ）

甚麼事（ナニゴトソ）　說甚（ナニヲ）ナリ

那（カノ）上声　又作哪（ドフシタト訳スカノト訓スル時古文ノ伊字ノバヒヨニ用ユ）

那箇（ドレ）　那道（ドフシタ）　阿那（イヅク）

那事テ　那里アナタ　那裏ソレ

他カノ平声　他ハ自ニ對シテイフ語ク　他家カ　他們カラ

這コノ　者ト通ス其コヲ主ニシテイフ意ク　唐書這賊誤我

這為ナニツ　這遭コヲタビ　這遍コヲタビ　這等ラハ　這頃コノ

箇コノ個同ツト訳スヒトツフタツ　逐個ヒトリ　則箇カフセヨカフセフ

若箇ノコバカ　箇裡コノウチ　一箇箇ヒトリ　眞個ホンモノ　者箇コノ

○可該是也　解險然些

可カベシ　前ニ出　可曾カツテ　可憐イトラシ　耐可ソフハナラヌ

小可スコシ　寧可ヨレサラバ寧索モ同　可中コノウチ就中ト同　若可若柯モ同

則可カフセヨカフセフ　可ニ十個客店

該ベシ　古文ノ宜字ハヒヨニ用ユ

該是ハツ　該當同上　應該同上　合該同上

是コン　前ニ出　正是イカニモ　終是トフデモ　更是ベツテ

可是デハナイカ　寧是イヅレノコニモ同　莫是デハナイカ

也マタ　マタ畢竟リノスヂニナルト云意ナリ　詩經ノ俾也可忘ノ也字掲上法ナレモ一タト訓スヘキ意持アリコ也ヲ一タト訓スル根源ナルヘシ

解（カイ）（ヨク）　古文ノ能字ノハレヨニ用ユ

解道（ヨクスルヲクノ意ク唐句ニ無ク人解道ヲ涼州トアルハ涼州ヲ取テヲヨクスル者ハナシト云意ノ解道ハ涼州トヨムハ非ナリ）

省（セイ）（ヨク）　古文ノ善字ノハレヨニ用ユ

險（ケン）（ホトンド）　古文ノ殆字ノハレヨニ用ユ

險不（ホトンド）　不字反語ニナリテホトンド云ハナフサルヤト云意ニテ二字ニテホトンド・訓スルナリ敢不トカキテ敢ヘスルヤ意ニテ同理ナリ

險（ホトンド）　險

然（セン）　前ニ出

繼然（ツイテ）　險然（ケワシイ）　猛然（タケシイ）　陡然（ツヤ）　坐然（ヲリ）　居然（ヲリ）

此（ヒ）（ヒ）　前ニ出チヨイ〳〵ト訳ス　獻些（ヒ）　好些（ヒ）

這些（コヽラ）　那些（ソコラ）　快些（ハヤク）　早些（同上）

○任放浪謾　不休沒莫

任（モヒ）（ヒ）　平声ヽヨト訳ス　饒（レウ）　前ニ出　從（ツイテ）　繼ト同　信（ヒ）　クカス意ナリ

任從（ヒ）（ヒ）　下皆同　任放（ヒ）　任遣（ヒ）　一任　任教

任他　從令　從遣　從他　從教　放教　儘教

放遣　遞莫　遣渠　聽他　從信　饒任　從聽

遮渠　饒渠　從儞　以上皆リモアラハアレト訓ジテ大抵同意ナリ

總（ツイテ）　縱ト通ス　總道（ツイテ）　任儞（ヒ）　說任（ヒ）　直饒（ヒ）

放 ハナス

古文ノ遣字ハシヨニ用ユ

容 ヨウ ベシヨリ轉シタル 許 キヨ ニルス意ヽ

浪 ミダリ タワイナシト訳ス

孟浪 ミダリ 孟八郎 ミンハチ

浪孟 同上

謾 ミダリ 漫同 ムチヤニト訳ス

忽謾 ミダリ 漫祖 ミダリ

不

不字俗語ニテハ反語ニナルヿ多シ

不分 フブン 分忿通ス 怒ヲサラニヤヽ云フヿアリ 好不大熱 ドフモヽアツタ テタニラヌ

休 ヤメヨヽ云意アリ

休道 ヤメ 休論 スル

送 カクレテ見エヌヿヽ現ノ反ナリ 古文ニモ没 没ト通ス

没巴鼻 チカリノナイ 没交渉 ヨツテモツカヌ 没奈何 ヒカタノナシ

没主張 リヤウケンナシ 没肚子 イクフカヤ 没撩没乱 ミダルヽ

没多時 ホドナタ 没天理 キヤウナ 没道理 ワケナシ

莫 ナカレ

莫ハナカランヤト訓シテナカランヤ有ルヽイモノデモナイト云義ヨリ轉シテナカレト訓スルナリ 有ヽイモノデモナイ用心ヲセヨト云ヿナリ禁止ノ辞ニ非ス

莫道 イフヿナカランヤ 其心得ヲセヨ 莫非 ヒルヽ反語トナルヽ

○來去除只 説道得着

來 バカリ コロト訳ス

百來里 百里バカリ 竭來 サキゴロ

事來 同上 向來 同上 却來 却後モ同 過來 イヘ

原來 サテハ 又來 モヤ 來 ニハ 總來 スベテ

去

除 ゼヒ ゼヒ所ト訳ス 老去 ヲヒ 醉去 ヲヒテ 做去 ヲヒテ

除却 除非 非字反語ニナリテタバ云云ニ非ラシヤ意ニテ二字ニテタバト訓スルナリ

只

前ニ出 只管 ヒタスラ 只顧 同上 只麼 同上

只是 ヒカ 只好 同上 只索 イヅ

說 ナラク 訓ズ也 則 暑ナリ

聞說 見說 言說 聞道 見道 言道モ同シ

道 ナラク 去ナリ 說ト同シバシヨニ用ヒ轉用セルナリ

那道 トフシタ 難道 カタリブ 難說モ同 知道 怪道

得 タリト訳ス 拵得 思ヒキツタリ 拵拌同 了得 ミヒラツタリ

看得 トル 會得 ノミコム 諗得 ミサシラシタ 帝得 アキラメル 帝諦通

着 シム アテルト訳ス

乱着 イカヒラナツタ 托着 ウケヒカス 爲着 タメニ 背着 ハク

朝着 向フテ 着急 コトニナル 急 捱着 キバル 安排着 サシヅメル

○負取窣斗・打赤了却

負　彼ヨリセラルヽ為所ノ意ナリ　欺負ダマサ　辜負トガメラル

取　我ニテセラルヽナリ

判取ラチ　認取トリ　好取ヨシ　省取ミラル

窣　ツクカニト訳ス　猝ト同シ　卒ノ意ナリ　窣地

斗　陡同　チラク、訳ス　猛タチマチ　ヒトクルヽ意ナリ

劃　切ツクルホド二意アル　瞥タチマチ　目ヲチラリト見ル意ニ云　瞥時ヒトトキ

打　丁雅反　デカスト訳ス　打聽キヽカス　打扮カキヤハス　打恭コヽロヲタクル

打點ガテンスル　打張ハタラクル　打鼾イビキカク　打頭ナヤミタツ　打磕捆ヲ

打疊個包兒タヽミタルフロヒツヽミ　不敢打ヲ市上走

赤　子遺ナキヲ云ト同音ク　赤貧ヒンボフ　赤憎エラミタイ

了　デト訳ス　結文ノ爾字ハレヨナリ

一了百了　一デモ百デモ　錯了ヒガナヒ　結果了ツイタ　引了ツ

躭閣了ウチスヘテオク　絆了ツナギ　拌了ハリハス

却　サテト訳ス

却說サテタ　老却ヒトヒ　賽却ヒヤタ　減却ヘラシテオク

○恰纔剛的　殺生樣脚

恰（アタカモ ヤウニ）　其程位ヲ形貌シテ云ナリ　纔ハ用ナリ　恰ハ体ナリ

恰好（ホドヨク）　恰似　恰纔（ヤウニ）

纔（サイ）　ヨフク二ト訳ス　方纔（ヤウニ）ソコデヨフク　適纔（タバイ）

剛（タウ）（ヤウニシテ）　オシツヨクト訳ス　剛方（イヤダ）　剛道（ヤウニ）　剛地（ヤウニ）

的（テキ）（ヤウニ）　タト訳ス　成精的（バケモノダ）　粗鹵的（ラチモナイ）

老實的（リチギ）　有的（アリダ）　腌臜的（キタナモノダ）　出名的（ゼンヒイ）

呼呀欵乃的（シツシサク）　流水的（スラスラト）

殺（ハナハダ）　又作慜　セツラシクト訳ス

忒殺（ハナハダ）　可殺（同上）　妬殺（ヒル）　嫌殺（キツカヒナ）　嚇殺（ラドシツケル）

生（ナマ）　始テ其コニ出合タル意ナリ

生憎（アダイヤラシイ）　生怕（アダコワイ）　作麼生（ドフジヤ）

太俗生（俗ナリ ヂヤ）　太清生（雅ナリ ヂヤ）　何似生（イカン）

樣（ヤウ）　物ヲカタドリテ云　小樣的（ヤサシイ）　什麼樣（ドノヨフナ）

脚（キヤク）　ソノ持ヘヲ云

手脚（テナミ）　元和脚（白樂天元稹ノ詩ノ元和脚ト云元和時代ノ手ナミト云ヘリ）

○向和枉賸　番回子兒

向　前ニ出

一向　向上　向裏　邪向

和　古文ノ與字ノバシヨニ用ユ　和着

枉　ムダニト訳ス古文ノ徒字ノバシヨニ用ユ

賸　剩同　實證切又時正切　一タリノウヘニカフアルト云処ニ用ユ古文ノ矧

且ト二ツ字アルバシヨナリ

番　去声　般同　一段一齣ノ意ナリ

這般　同上　恁般　同上　今般　同上　諸般　盡般

箕箒般　箕ノ如クニタル　一般兒

回　タビト訳ス　番ハ用回ハ体　這回　次回　下回　同上

子　ソノ内ニ持タル意ニテ子字ヲ添ルナリ

耐着心子　要子　寒栗子

樣子　鏡子　筆子　簪子

兒　物ヲ小サクヤサキモノニシテ云ヒキ兒字ヲツケルナリ

方勝兒　一字兒　醃菜葉兒

彎角兒（マガリト）　一堺兒（ヒトカサ子ニ）　蠢老兒（アホヲヤヂ）

砲兒（イシビヤ）　熊兒（クマ）　蛇兒（クチナハ）　被襖兒（アトン）

珠涙兒（ナミダ）

○靠交消厮　哩呢咄咦

靠（カウヨリ）　古文ノ由字ノバシヨニ用ユ

交（カウシム）　教ト同音ニテ通シ用ユ

消（シヤベシ音須）　須ト叶音ニテ通シ用ユ

厮（シツアヒ人声思必切）　古文ノ相字ノバシヨニ用ユ

哩　ワイト訳ス（カフビヤワイサフビヤワイ）カクアルゾヨト云聞ス辞ナリ

呢　ハヤ訳ス（カアスルハドフスルハ）

咄　ア、　コレハサテト訳ス其コトノ不満ヲ叱スルコトバナリ

咄咄（コレハサテ）　咄嗟（コレハサテヤアイ）

咦　ア、　呼笑ノ声ナリ

○古今語辭　槩臭于斯

精之覈之　勿錯毫釐

助語審象卷之下

皇都書肆

京御幸町 御池通下ル

菱屋孫兵衛

大日本帝國
文部省藏版之印
京都府書肆

萬治二年己亥九月原鐫
明治三年庚午正月五刻
明治九年五月十八日版權免許

編次者 故人 三宅橘園

出版人 京都府平民 藤井孫兵衛
上京第三十區御幸町御池下ル
大文字町五百四番地